



なかむら かずゆき
中村 和之
教授

蝦夷錦とアイヌの北方交易 ～北のシルクロードを探る

アイヌ民族は日本の**先住民族**です。
2008年、国会でアイヌ民族を日本の先住民族とする決議が採択されました。学校教育などの場で、アイヌ民族について教えることは、社会的にも強く要請されています。

蝦夷錦は、中国を支配した清朝の役人の服です。アイヌの人たちがこの服を持っているのを見て、日本人が「蝦夷の錦」と呼んだのです。

清朝は、アムール河流域・サハリンの先住民に地位を与え、それに見あった制服を支給しました。下は、1809年に**間宮林蔵**が見た**朝貢**の儀式です。一着の服を与える代わりに、1着分の反物を与えることもありました。函館市北方民族資料館には、蝦夷錦の逸品が展示されています。

現在、名古屋大学や日本原燃などとの共同研究で、蝦夷錦から繊維を採取し、**炭素年代測定**を行っています。17世紀後半以降の年代が得られています。

蝦夷錦は、アイヌ民族が**自然と共に暮らしていただけではない**ことを、私たちに教えてくれます。



研究のキーワード
アイヌ民族、蝦夷錦、交易、朝貢、清朝